特集

ふるさと探訪 PART 118

葛尾城跡と史蹟勝地保存会

葛尾城址より見たる坂城町

葛尾城跡は村上氏が坂城郷に居館を構え、武田氏に攻められ天文二十二年（一五五三）自落した山城です。村上氏は越後の上杉氏を頼み、その後、川中島合戦が始まります。最後は、徳川氏の「砦」として使われましたが、江戸時代に「一国一城」となり廃城となりました。この葛尾城は険しい地形を利用した大堀切や土塁を多数備え、本郭から北に向かっての尾根筋には高低差の大きな堀切が何本もあります。姫城、岩崎城などへの複数の逃走ルートが持てる、敵にとっては厄介な城ですが、常に大将や多くの兵が住む場所ではなく、見張りを置く程度で、敵が攻めてきた時に敵の動きをつかみ、守りを固めて抵抗する砦でした。

大正十二年（一九二三）長野県による史蹟名勝天然記念物調査が行われ、調査員の藤沢直枝氏が報告し、それを基に昭和四年（一九二九）六月に埴南農蚕学校（現坂城高等学校）教諭の中島惣左衛門氏の提唱により「坂城町史蹟勝地保存会」が設立されました。この年十月、ニューヨークに始まった世界恐慌は、日本を直撃し未曾有の大不況（昭和恐慌）となりました。生糸相場が暴落し、長野県農家の約八割を占める養蚕農家は影響をまともに受け、繭の価格は前年の半分以下に値下がりし、生産費の半分も回収できない状態でした。

その三年後の昭和七年（一九三二）四月二十四日葛尾山の山頂で、葛尾城・姫城の保存事業竣工式に併せ村上義光公六百年祭が行われました。鎌倉時代に幕府軍と戦った後醍醐天皇の皇子の護良親王を守り、討ち死にを遂げた村上義光公は「忠臣の鑑」と、当時は教育されていました。

昭和八年（一九三三）に保存会により発行された「葛尾城址保存事業概要」から事業の内容を知ることができます。

葛尾城址記念塔の建設（工事費七百円）、矢羽型掲示廻転板の建設（工事費　五十円）、城址土砂崩壊防止事業（工事費　五十円）、二ノ丸址、堀切址、三ノ丸址、水ノ手址（三カ所）に標柱を建設しました。

また、町内史蹟勝地保存事業として、お堀の橋、村上義清公御館址、古墳、奈良朝時代某古寺址、坂城駅天領坂城陣屋址、生神昌言社に至る案内、葛尾城址に至る案内（三カ所）、村上氏居館址道に標柱を建設しました。

この時に坂城町名勝絵葉書を発行しています。第一集は「横町全景、立町全景、葛尾城址と村上義清公墓、坂城神社、大英寺全景、満泉寺及位牌殿、榎坂と笄の渡、坂城町全景」

第二集は「磯部より見たる葛尾城址、葛尾城址より見たる姫城址、駅より見たる飯縄の奇岩、葛尾城址より見たる温泉地方、葛尾城址より見たる坂城町、御所沢塔の平、十三度権現、葛尾城址より見たる鏡台山、常山隈より見たる昭和橋、大英寺の桜花」です。

葛尾城址より見たる姫城址

葛尾城址の中央には古社があり、葛尾会、大宮、新町の篤志家で毎年四月二十四日に祭祀を行ってきました。安政年間と明治時代初期に数回、改修しています。この時に中央から東北端に遷し、石夜燈二基、新たに拝殿を造営しました。（工事費　二百円）登山道は表参道大宮口、参道姫城口、新町口、近道、ツツジ山口、苅屋口、裾名川口、磯部参道口の八カ所を整備し、大宮口、苅屋原口、磯部口、姫城口の四箇所には、東屋を建設しました。

以上のような事業を遂行し、葛尾城址保存事業竣工式並びに村上義光公六百年祭が葛尾城跡にて盛大に開催されました。その時の様子がこの写真です。

拝殿前の集合写真

その式典で披露された思想善導、軍国主義を感ずる式辞や祝辞の一部を要約して紹介します。

式辞

当会保存事業が工成り式典を奉行するに当たり、我が国体の精華はこれ教育の淵源にして報本反始、我は億兆の魂なり。先人の偉業遺蹟の功業遺址の以て発揚するは、愛国の志士感嘆する大なるもの。本会、当町史蹟勝地の顕彰と保存に心を傾け、県の補助、激励と、天下の浄財拠出とに依り、勝地なる葛尾城址、姫城址の遺蹟に愛国愛郷の霊を打ち込み、百年事業をなし、実に君国報恩の結晶なりと信ず。ここに国体を闡明（せんめい）し、歴史と伝統の光を讃し、国運の前途に偉大なる光明を展開し、精進努力し有終の美を致さん事を期す。

（坂城町史蹟勝地保存会
会長 坂城町長　谷川　繁）

祝辞

史蹟を永遠に保存するは、愛郷の観念を生じ国家思想を発揚し、国民精神を涵養する所以。本日、保存工事成り村上義光公の六百年祭に兼ね竣工式を挙行せらるは、機宜に適したる措置にして慶賀に堪えざるなり。将来益々郷党一致、此の貴重なる史蹟を愛護し、之を後世に保存せらんことを願う。

（長野県知事　石垣倉治）

史蹟勝地保存会が保存工事落成式並びに村上義光公六百年祭を挙行に当たり、史蹟勝地保存会の此の事業は誠に時局を匡救する有力なる企であると信じ、慶賀に堪えざる次第です。

（町村長代表 屋代町長　市川澄丈）

かの上海に、満州に皇軍が奮戦力闘している姿は全く大和心を表象する桜花である。花は桜木、人は武士と申すが皇国尚武の精華が如何に大和桜の如く国の内外に爛漫と咲き出す。坂城は北に山を負った心地のよい地、山河形勢のまとまった地、歴史的由緒ある地であり、徳川期には陣屋を置き、宿場として繁栄した。幾世代にわたり信州有数の文化の地に史蹟勝地保存会設立は、坂城の既往、現在を知り更に将来に進展すると思われ、期待嘱望する所以である。葛尾山上に立ち無限の蒼空を仰ぎ、静かに村上の苔蒸せる古祠に跪拝する時、転（うた）た万古玄妙の内に通うものを覚える。

（学校長代表
戸倉小學校長　中村常雄）

この式典会場では、記念スタンプの押捺、記念品の配付、祝賀会記念撮影が行われました。当日の午後一時からは、坂城小学校講堂で記念講演会が開かれました。講師は衆議院議員の鷲沢与四二氏、地方史家の藤沢直枝氏、ドイツ文学者で坂城小学校校歌の作詞作曲をした林久男氏の三名でした。また、記念史料展覧会が中央公会堂、大宮公会堂にて開催され、入場者は、総延人数三八五二人でした。

挙町一致、協賛応援の盛況振りは、「坂城郵便局による紫色スタンプを使用し宣伝。坂城町商工会は、当日、早朝より煙火を打ち上げ、店頭装飾・記念大販売、チラシ、ポスター布。坂城町青年会、立町町壮年会、坂城町女子青年団、信濃電燈会社、坂城町貸座敷組合、坂城劇場、菱小自動車店、坂城町田町山根屋、大宮区及び葛尾会は大いに協力、協賛」とあります。また、知事、来賓を招待し町内協賛会員含めて百名の大夜会を坂城劇場（現都筑製作所）で開催していま午後六時開会で、余興として葛尾音頭、坂城音頭の舞踊等も披露され、午後九時散会と記されています。

最後に、概要の末尾にあった中島惣左衛門氏の熱き思いの一部を紹介します。

中島惣左衛門　跋

知るは愛するの基である。郷土祖国に対する愛、如何にして育成すべきか。世相に刺激され天職に自覚し、郷土研究の真探教興の潮に乗った自分は地方郷土史の研究に頭を入れ、資料をただ教壇上のものとしたり、一席の座談化するに忍びなく研究調査につれて、煙滅に破壊に瀕しているものを続々発見した時の嘆きを無謀にし、生意気にも町内元老や有識者に訴え、遂に保存会が生まれ、保存の事業に盲進しました。事の性質が国家的であり教育的であり思想報告であり、多くの観光客を引いての地方開発の基礎であり、県や全国の人格者の共鳴を得られ、孤軍奮闘の形でしたが、茲に報告し得るまでに進行いたしました。資金をご寄附下さった方に対しては御礼の言辞を有せず、一生の感銘であります。此の事業が一時的なお祭り騒ぎに終わらぬ為には、此の誠心的意義を世の人々が体験して尚、常に新生命に生きるにあると思います。本会の此の祭典に亦事業にしても、寄附者方の御芳志と会長外役員諸賢のご労力や各種団体の御尽力の前に額ずくを惜しむものではありません。

葛尾城址より見たる鏡台山

この葛尾城跡は昭和四十九年（一九七四）長野県の史跡に指定され、坂城神社登山口には専用駐車場、水洗トイレが完備されています。登山道や山頂などは、私達大宮区の葛尾城跡保存会で整備しています。最近の山城ブームで遠方からの登山者も増えています。

平成二年（二〇二〇）に「第二七回全国山城サミット上田・坂城大会」がありました。山城ガイドツアーが開催され、当町では虚空蔵山城跡、和合城跡、葛尾城跡が会場になり大盛況でした。このまま終りにしては勿体ないと、私達は、上田広域山城連絡協議会を立ち上げ「山城は地域の遺産」として残そうと山城連絡協議会の仲間達と保全活動、情報交換を継続しています。

また文中に紹介した「坂城名勝絵葉書第二集」は現在の景色と比較した写真パネルにして、「坂木宿ふるさと歴史館」に展示されていますので是非ご覧ください。

（葛尾城跡保存会
顧問　田原茂樹）

参考資料

「葛尾城址保存事蹟概要　中島惣左衛門」「坂城町誌 下巻」他